

【第1回】石狩市総合戦略推進懇話会開催結果報告書

令和元年7月26日

【日時】 令和元年7月1日（月）10:00～11:30

【場所】 石狩市役所3階 庁議室

【出席者】 12名（16名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治	○	委員	酒井 志津子	○	委員	徳光 康宏	○
副会長	竹口 尊	○	委員	佐藤 拓也	×	委員	林 美香子	×
委員	尾田 真	○	委員	柴田 肇	×	委員	原 俊彦	×
委員	河野 明美	○	委員	白井 かの子	○	委員	向田 久美	○
委員	小林 卓也	○	委員	高梨 朝靖	○			
委員	小渡 信洋	○	委員	田原 朋学	○			

※正副会長を除き、あいうえお順

□オブザーバー 北海道石狩振興局地域創生部：守山部長

□事務局 石狩市企画経済部：小鷹部長、中西次長兼企画課長、中館企画担当主査、橋本企画担当主任、本庄企画担当主事

【傍聴者】 1名

【次第】 1. 開会

2. 総合戦略推進懇話会について（事務局説明、意見交換）

(1) 概要、スケジュール等【資料1、2】

(2) 平成30年度実施事業の点検、評価等【資料3】

(3) 次期総合戦略について

3. その他

4. 閉会

==== 会議内容の記録 =====

以下、○は委員発言要旨、●は事務局発言要旨。

1. 開会

市長挨拶

2. 総合戦略推進懇話会について

(1) 概要、スケジュール等【資料1、2参照】

(2) 平成30年度実施事業の点検、評価等【資料3参照】

質疑・意見

<「平成30年度実施事業一覧（資料3）」に基づき実施事業の点検・評価>

※ 戦略目標ごと点検・評価を実施。「No.」については、資料3の左側に記載している番号

【戦略目標1 「新現役世代」が活躍する】

(1 ページ : No.1 具体的な事業「町内会館などを利用した各種講座等（町内会カレッジ）の開催支援」について)

○保健福祉部門では健康づくり講座を、社会福祉協議会では出前講座を、地域住民の中でも住民の仲間づくり講座を開催しており、教育委員会部門だけでカウントするのでゼロとなっている。本来の目的は仲間づくりであるので、幅広くカウントする必要があるのではないかと。

(1 ページ : No.4 具体的な事業「高齢者ふれあいサロン事業展開のサポート」について)

○重要業績評価指標（以下 KPI）に対する評価は「S（すでに達成している）」ということだが、問題は中身である。ふれあいサロンの目的は、高齢者の社会的孤独の解消や災害に備えた関係づくりであり、月1回、週1回の開催ではふれあいサロン機能が十分に活かされないという懸念がある。内容のレベルアップを図るなど、まだまだ改善の余地はあると思われるので、評価は「A（KPIの達成に向け、事業が着実に取りこまれている）」ではないかと。

●昨年もお話いただき、担当課でもいろいろ検証しているが、今回の総合戦略では、KPIの設定を「高齢者サロンの新規開設数」としており、すでに達成していることから評価は「S」としている。サロンの中身の重要性については十分認識しているので、次期総合戦略策定にあたって、その点も検討してもらいたい。

○ふれあいサロン支援事業交付金について、町内会であれば申請できるが、高齢者クラブでは申請できない現状がある。本来の目的を考えれば、高齢者クラブでも申請できるよう検討してほしい。

○花川北六条町内会で実施しているキタ・ロック☆カフェは、週3回（月・水・金）の開催で、利用者は4か月間で1,000人に達した。新規の方や男性が参加しやすいようにアイデアを出し合い、いろいろな講座や催しものを行っている。

(1 ページ : No.6 具体的な事業「地域自治システム検討事業の実施」について)

○わかば地区地域会議は6町内会で構成されているが、町内会役員が1～2年で交代したり、高齢化による役員の担い手不足などの理由で、各町内会で取り組む事業の実施に格差が生じている。このような地域自治システムに取り組む場合は、リーダーを養成する必要がある。地域自治システムは、現在花川北地区1箇所で行っているが、あと2箇所程度、花川南地区で取り組むと普及していくのではないかと。

【戦略目標2 「子育て力」をさらに発揮する】

(2 ページ : No.10 具体的な事業「結婚新生活支援事業」について)

○年齢要件（夫婦ともに34歳以下）や所得要件（夫婦の所得の合計額が340万円未満）を国と同様に設けているとのことだが、国の基準以上のことをしてはいけないのか。

●国からの交付金を受けている事業であり、国で示している要件と同じであれば交付金が受けられるが、市独自の要件で実施する場合は、交付金は受けられず、市の財源で事業を実施しなければならない。

○申請件数の伸び悩みは、PR不足が考えられる。結婚年齢が遅くなっているのは確かなので、年齢要件

を34歳以下から39歳以下にするなど、国の要件以上のことをやるとPR効果が高く、若い世代の移住に繋がるのではないかと。

- 市内外の企業1,260社へPRチラシを郵送したとあるが、その効果は検証しているのか。
- 申請時に「事業をどのようにして知ったか」などのアンケート調査を実施している。

【戦略目標3 「地域資源」からモノやしごとを創る】

○さくらインターネットのデータセンターが市内にあるので、市民・児童向け講座やインターンシップなどでもっと活用できないだろうか。地元でこれほどの企業がある利点をもっと活用すべきだと思う。

(3ページ: No.20 具体的な事業「石狩ブランド情報発信事業」について)

○道の駅石狩「あいろーど厚田」のオープンにより、事業者による新商品の開発が活発化している。石狩産のものを使って、石狩の魅力ある商品をどんどん発信していければと思う。

(3ページ: No.23 具体的な事業「PR事業(イベント開催)」について)

○「石狩まるごとフェスタ」は、平成30年度は北海道胆振東部地震の影響で中止となり、今年度は予算の関係等で実施しないことがいしかり産業まつり実行委員会事務局において決定され、2年連続中止となる。行政も何か支援ができなかったのだろうか。子どもたちも楽しみにしているイベントであるため、非常に残念である。規模を縮小して開催するなど、何とか開催できないものだろうか。

○他の自治体では、市民や行政が力を合わせて伝統的なお祭りを守ろう・継続しようという強い意思が感じられる。石狩市ではさけ祭りなどの三大秋祭りが伝統的なお祭りにあたると思うが、それらを盛大にしたり、厚田区・浜益区のいろいろなお祭りを支援して盛り上げていくというのもひとつの方法だと思うが、本市では過去にも予算の関係でイベントを実施できなくなったケースがあるので、この傾向を変えていかなければならないと思う。

【戦略目標4 「いろんな顔」をつくる】

○厚田区・浜益区の振興について、例えば他市町村で実施している「町長と一緒にいくまちづくりツアー」などを参考にして、旧石狩市民との壁を取り払う取組をしてはどうか。

(5ページ: No.40 具体的な事業「あい風プロジェクト(道の駅)」について)

○冬期間における道の駅の活用と集客については、工夫が必要だと思う。

○道の駅は景色も素晴らしく、食事も美味しかったが、加工品が多い印象である。道の駅というと、産地直結で新鮮なものが置いてあるというイメージが強く、そういったものが求められているかと思う。

○道の駅の周りには、キャンプ場や朝市、温泉などいろいろなものがそろっているが、点在しており、個々に取り組んでいるとインパクトに欠けてしまう。冬は、富良野やニセコを参考にして、魅力あるイベントができればいい。

○何度も道の駅には行っているが、冬が心配である。どうやったら足を運んでもらえるのか、やり方を模索しながら続けていくしかない。1年単位で考えるのではなく、3～4年後を見据えた長いビジョンで考えることも重要である。

○一番のネックは道路であり、市単独では難しい問題であることから、北海道や国に改善を要請していくことも必要である。

【戦略目標5 誇りとなる「人や文化」を育てる】

○石狩市には元大学教授など学識経験者が多く住んでいるので、もっと活躍してもらえないか。

(5ページ: No.44 具体的な事業「農山漁村交流」について)

○農泊が各地で活発化しているので、石狩市でも取り組んでみてはどうか。

○石狩市には、海や山があり、さくらんぼ狩りが楽しめるなど、都会ではできないような石狩ならではのことができると思う。子どものいる家庭では、移住を考えるきっかけにもなるし、子どものうちに自然とふれあうことで、その後の成長過程でよい影響をもたらす。

(5ページ: No.52 具体的な事業「スポーツ能力開発プログラムの実施」について)

○市はソフトボールを市のスポーツとして認定しており、力を入れて取り組み、環境も整えていると思うが、学校の部活動としては減少しているため、残念に思う。

(5ページ: No.59 具体的な事業「移住定住促進事業」について)

○金融機関の取組事例

- ・北海道銀行～地方創生の取組を各自治体と連携して実施しており、民間集合住宅建設の支援等を行っている。
- ・北洋銀行～空き家活用対策として各地で各種セミナーを開催。石狩市が作成しているプランへ協力や住宅購入者等への融資を行っている。

【戦略目標6 時代にあった地域として持続する】

(7ページ: No.62 具体的な事業「空き家活用促進事業」について)

○沼田町の空き家対策では、「丘の上のパン屋さん」や「コミュニティースペースのある家」など、テーマごとにリノベーションした住宅を、沼田町での具体的な暮らしとともに提案するという面白い取組を行っており、実際にパン屋やカフェがオープンしている。他自治体の成功事例を参考にして、石狩市も札幌市に隣接している強みを活かして取り組んでみてはいかがか。

○人口減少問題について、各種補助事業などは小手先の対応であって、抜本的な対策にはならない。東神楽町など、人口が増えている自治体を研究する必要がある。

※以上、点検・評価修了

- すべての点検・評価が終了したため、改善や見直しが必要である「B評価」であったものについては、持ち帰り担当課と検討させていただく。(B評価：No.1、No.50)

(3) 次期総合戦略について

- 現在の「石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間は、国と同様、平成27年度から平成31年度(令和元年度)までの5年間となっている。
- 国においては、今年度中に次期総合戦略策定を検討しており、スケジュールは6月中に基本方針を策定、12月中に第2期総合戦略を策定する予定である。
- 本市においても、国の政策の動向と連動した次期総合戦略の策定を考えており、その内容としては、これまでの内容を継承しつつ、将来にわたって持続性の高い地域社会の構築を目指す。
- 市が次期総合戦略を策定することにより、地方創生推進交付金が活用できるメリットがある。
- 次期総合戦略の構成イメージは、現在の総合戦略と同様に、概要、戦略目標と具体的な施策、人口ビジョンからなり、令和2年度から6年度までの5か年の計画と考えている。
- 戦略目標と具体的な施策については、基本的には従来取組に加え、国の基本方針を踏まえた内容で進める予定。

質疑・意見

- 市内の若手キーパーソンからも意見をもらうなど、うまく連携してほしい。
- 昨年度から市と商工会で「まちゼミ」を開催し、今年度も実施される予定である。商店街を元気にしようとする取組はありがたく、引き続きバックアップをお願いしたい。

3. その他

4. 閉会

令和元年7月26日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長 角川 幸治